

## I. この1年の歩み全体概要

川崎いのちの電話は1986年12月に全国27番目のいのちの電話として開局、2016年12月に創立30年を迎えた。2016年をさらなる30年に向けた出発の年だと位置づけた。

2016年度は、相談活動を進めるうえで、“相談者の立場に立って「相談しやすい電話」とは”を常に追求し、(1) つながりやすい相談電話 (2) 十分に聴いてくれる相談電話——を大きな目標とした。

### 1. 電話相談事業

#### ①相談電話件数

2016年(1～12月)の相談電話件数は、1万2981件で15年に比べて518件減った。男女の割合はほぼ半分ずつ。1日あたりの件数は38件。自殺傾向の電話は10.7%

相談者の年齢は、40代が全体の23%、50代21%、30代17%、60代12%。相談内容別では、生きがいや孤独などの「人生」が31%で最も多く、次いで精神疾患などに関する「精神」23%、「家族」14%、ハラスメントやいじめなどの「対人関係」13%となった。

毎月10日に実施している「フリーダイヤル自殺予防いのちの電話」の相談電話件数は、645件、自殺傾向の電話は22.2%と高くなっている。

自死遺族ほっとライン(毎月第2第4水曜日午後12時～4時)の16年度の受信件数は14件だった。電話相談の開始時刻を午後1時から1時間早めたが、件数は4件減った。このほっとラインを受ける相談員は増えている。

#### ②相談員数

30期電話相談員として5名が新たに認定された。29期に続いてひと桁の認定となった。実際に電話を受けている相談員(2016年12月現在)は144名で、前年同月に比べて6名減った。全国のいのちの電話でも同じように、相談員の減少傾向が続いている。

### 2. 相談員の養成研修・継続研修

新たに相談員となる32期の募集で、応募者の増加を目的に、最初の基礎講義(公開講座、2～3月に6回)の開催曜日を初めて土曜日の午後とした。46人が受講し、相談員への応募は20人だった。

研修中の31期は、17年9月に正式に相談員として認定される。30期では、5人が相談員として認定され、9月に認定式及び歓迎会を行なった。

現任相談員に対する継続研修(対象16グループ、年12回)を実施、相談の振り返りやスキルアップを図った。相談員全員を対象に年1回のスーパービジョンを実施。

さらに中堅相談員のレベルアップ研修を8月に開催。11月には、全相談員を対象にしたリフレッシュ宿泊研修を実施。近隣のセンターからの参加があった。この研修は財団法人かわさき市民活動センターから助成金を受けた。

9月に2泊3日で開かれた、相談員全国研修会・なら大会に川崎から15名が参加し、研修を受けたほか各センターの相談員と交流した。

自死遺族ほっとラインの相談員の研修と増員を図るため、11月に研修会を開いた。

### 3. インターネット相談

2015年6月に試行的に始めたインターネット相談は、16年6月から本格運用となった。川崎では、東京にあるサーバーから相談文を取り出し、返信している。16年(1～12月)の返信件数は131件で、15年に比べて倍増した。相談員数も増えて12人。

6月の本格運用に合わせ、「ネット相談研修会」を開催。川崎センターを中心に、近隣の他センター、川崎市役所、社会福祉協議会などからの参加があった。財団法人かわさき市民活動センター

から助成金を受けた。

#### 4. 財務

活動の運営資金を支えてくれる賛助会員、寄付協力者は、個人 154 名、58 団体、合計 212 名・団体だった。

#### 5. 広報・社会教育活動

広報紙「川崎いのちの電話」を 87 号～89 号と 3 号を発行（延べ 15,000 部）。創立 30 周年を迎えたため、88、89 号で特集を組んだ。

川崎市との共催事業、こころの健康セミナーを 10 月に開催。作家の石井光太氏の講演、その後石井氏を交えて市やボランティア団体などの代表が意見交換した。張賢徳氏（帝京大学附属溝口病院教授）がゲートキーパーの役割について話をした。

市民に広くいのちの電話の活動を知ってもらうためチャリティー寄席・コンサートを毎年企画。4 月にチャリティー寄席（柳家喬太郎ら出演）、10 月にチャリティーコンサート（クミコ出演）を行い、多くの市民が来場した。

#### 6. 理事会・評議員会・各種会議・委員会活動

理事会は 5 月、11 月、2 月（書面決議）、3 月と 4 回開催。評議員会は 5 月（2 回）、11 月、3 月と 4 回開催。例年の審議に加え、17 年 4 月施行の社会福祉法人法の改正に合わせて定款変更などを審議し、新しい定款などの承認をえた。

運営会議、相談員委員会、研修担当者会、インターネット相談委員会、事業推進委員会の企画部会、広報部会、製作部会の各会議を実施した。

#### 7. 対外活動

行政、学校、民間団体との活動は次のとおり。

- ・日本いのちの電話連盟の理事長・事務局長会議、専門委員会などに出席
- ・いのちの電話相談員全国研修会・なら大会（9 月）
- ・川崎市からの委託事業「自死遺族ほっとライン」（毎月 2 回）に協力した
- ・神奈川県犯罪被害者支援者会議（6 月）
- ・川崎市青少年育成連絡会議（同）
- ・相模原市ゲートキーパー講座（9 月）
- ・傾聴ボランティア養成講座（10 月）
- ・川崎市地域自殺総合対策推進連絡会議
- ・各種の外部研修に参加した
- ・支援をいただいているライオンズクラブ、ロータリークラブの例会や周年行事等に参加した

#### 8. 創立 30 周年記念事業

3 月 19 日午後 1 時から、川崎駅前の川崎商工会議所ビルで創立 30 周年記念式典を開いた。式典には、206 人（来賓 30 人、他センターから 15 人、OB30 人、理事・評議員 24 人、製作部 10 人、相談員 97 人）が出席。来賓として、福田紀彦川崎市長、石田康博川崎市議会議員、山田長満・川崎商工会議所会頭、井出孝・ライオンズクラブ 330-B 地区ガバナーらが出席した。

第 1 部は、リオパラリンピック水泳日本代表の成田真由美さんが「自分の可能性を求めて」と題して記念講演をした。第 2 部の記念式典の冒頭、金子圭賢理事長は「相談員の日々の努力、多くの支援のおかげで 30 周年を迎えることができた。ひとりで悩む人の声にこれからも寄り添っていきたい」とあいさつした。第 3 部・感謝の集いでは、30 年の歴史を写真と DVD で構成した「プロジェクト L」を上映。「思い出を語ろう」では、創立当時の話を関係者に聞いた。

## II. 電話相談活動

### A. 電話相談の状況

#### 1. 相談電話件数

2016年(1～12月)の相談数は14,155件。内容別の「その他」(情報提供など)を引いた実相談は12,981件で、前年に比べて518件減った。1日平均35件。男性からの電話が6,086件(19件増)、女性が6,895件(537件減)。

相談者の年齢別では、40代が全体の23%、50代21%、30代17%、60代12%、不明11%。

#### 2. 男女別・年代別相談状況

最近10年間の相談状況の推移を数表で示し、グラフで変化を示した。

表1 男女別実相談数(2007～2016年)

(単位:件)

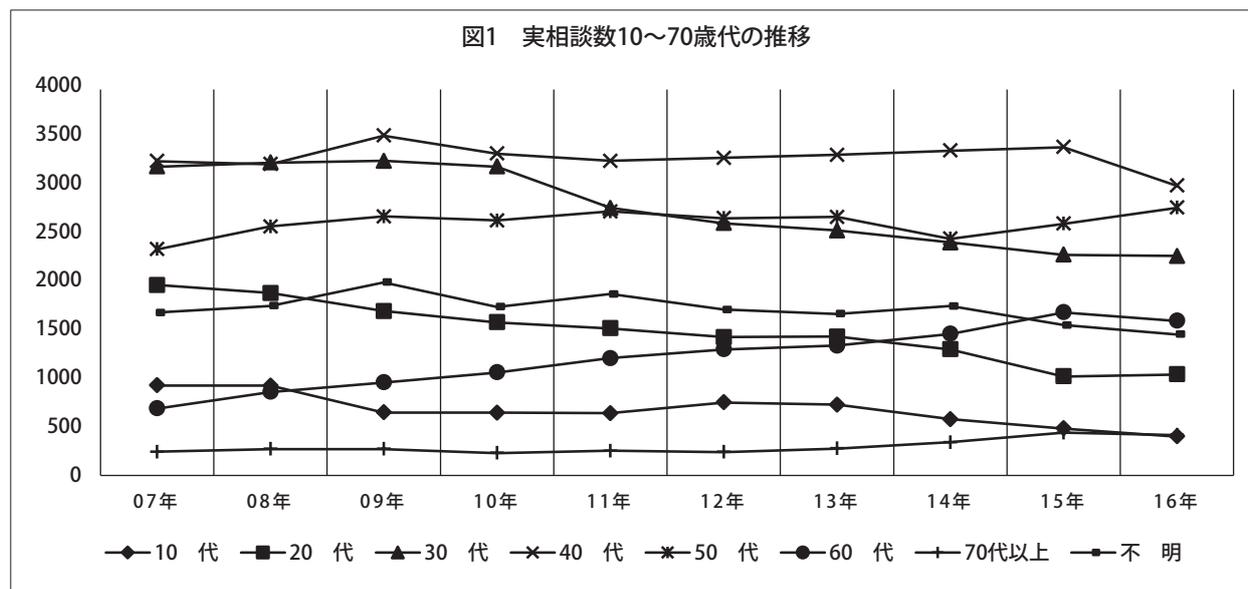
区分	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年
男性	6,439	6,571	6,866	6,299	6,142	6,036	6,008	6,228	6,067	6,086
女性	7,892	8,190	8,194	8,162	8,144	7,993	7,997	7,458	7,432	6,895
計	14,331	14,761	15,060	14,461	14,286	14,029	14,005	13,686	13,499	12,981

表2 年代別実相談数(2007～2016年)

(単位:件)

区分	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年
10代	931	929	651	649	区分	757	732	583	485	402
20代	1,974	1,890	1,703	1,586	1,525	1,434	1,438	1,307	1,025	1,047
30代	3,199	3,241	3,261	3,200	2,771	2,615	2,538	2,413	2,288	2,273
40代	3,258	3,227	3,523	3,335	3,260	3,290	3,321	3,365	3,403	3,002
50代	2,344	2,580	2,683	2,643	2,735	2,666	2,678	2,453	2,609	2,775
60代	694	865	963	1,068	1,216	1,305	1,344	1,468	1,689	1,601
70代以上	244	272	274	232	256	243	279	343	442	419
不明	1,687	1,757	2,002	1,748	1,880	1,719	1,675	1,754	1,558	1,462
計	14,331	14,761	15,060	14,461	14,286	14,029	14,005	13,686	13,499	12,981

図1 実相談数10～70歳代の推移

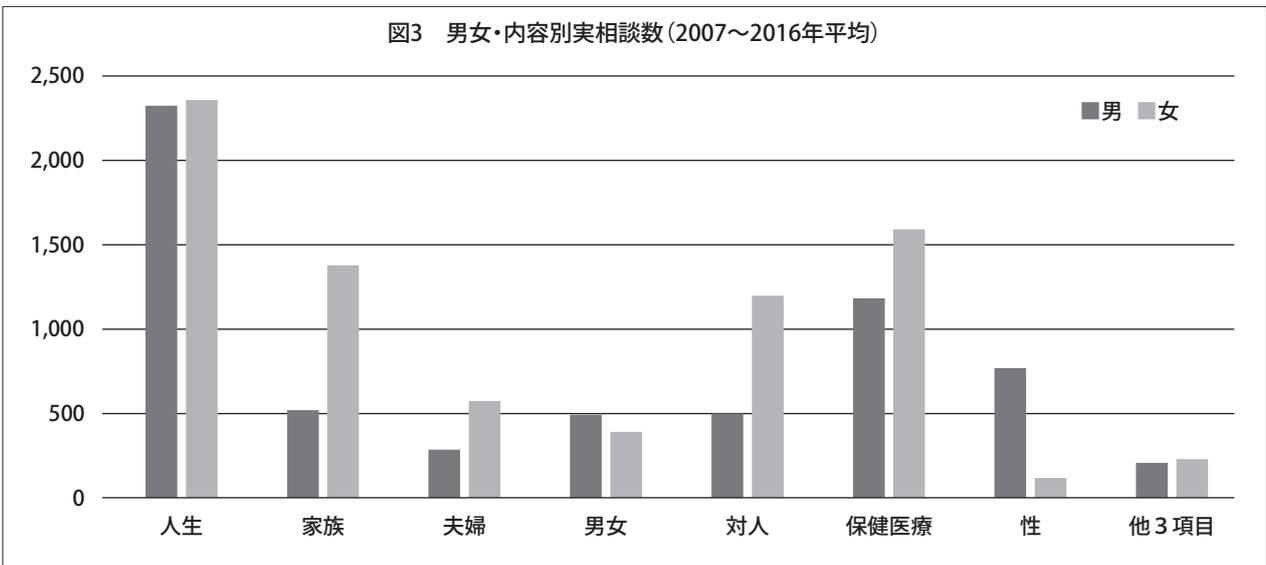
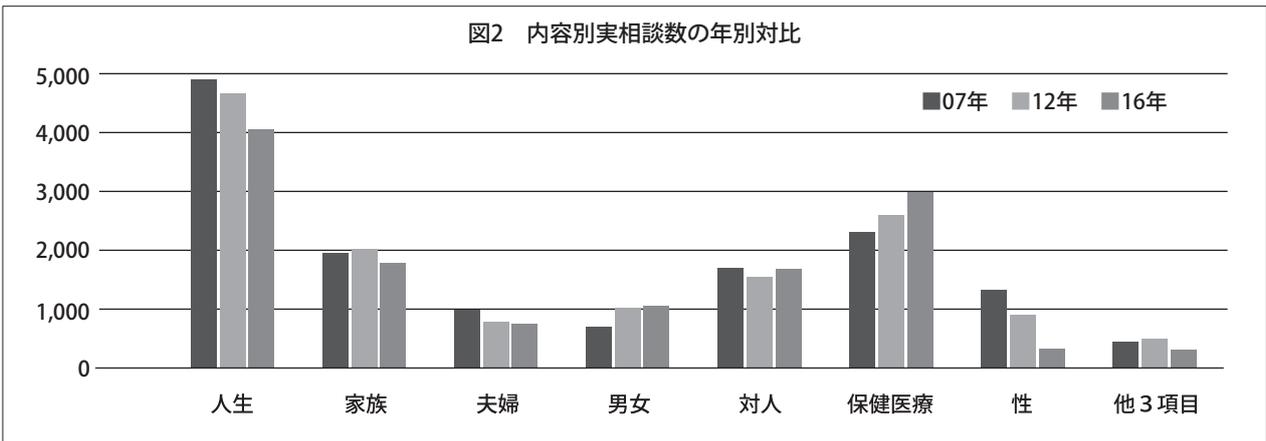


### 3. 内容別相談状況

最近 10 年間の相談状況の推移を数表で示し、グラフで変化を示した。

表 3 内容別実相談数 (2007～2016年)

区分	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	計	割合(%)
人生	4,907	4,910	5,210	5,085	5,075	4,659	4,446	4,393	4,101	4,055	46,841	33.2
家族	1,948	1,852	1,691	1,808	1,817	2,018	2,070	2,039	1,938	1,786	18,967	13.4
夫婦	996	926	1,026	910	925	786	863	711	692	747	8,582	6.1
男女	699	735	808	772	738	1,025	1,087	1,006	898	1,061	8,829	6.3
対人	1,705	1,947	1,849	1,763	1,482	1,555	1,577	1,596	1,802	1,688	16,964	12.0
保健医療	2,304	2,456	2,787	2,473	2,502	2,591	3,084	3,230	3,299	2,992	27,718	19.6
性	1,322	1,425	1,248	1,210	1,218	905	404	360	428	333	8,853	6.3
他3項目	450	510	441	440	529	490	478	351	341	319	4,349	3.1
計	14,331	14,761	15,060	14,461	14,286	14,029	14,009	13,686	13,499	12,981	141,103	100.0



#### 4. 自殺志向相談状況

最近 10 年の自殺志向相談の状況を表及びグラフで示した。

表 4 男女別自殺志向相談割合の推移（対 実相談数 %）

	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年
男性	8.5	9.1	9	9.6	8.7	10.2	12.2	9.3	11.1	9.7
女性	9.2	10.8	11	10.1	10.8	12.2	8.2	13.4	12.4	13.2
男女計	8.9	10.1	10.1	9.9	9.9	11.3	10.9	10.9	11.8	11.5

